

【給食協会賞】私の心と体を作った給食

丈山小学校 源波 由莉

私は、いつも給食を何気なく食べていました。でも、振り返ってみたら保育園からなので九年もずっとお世話になっていきます。

保育園のころ、大好きだったのはビビンバです。ごはんの上に具をいっぱいのもせてもらって、そして、それにいつもセットになっている春雨スープが楽しみでした。お母さんが作るのとはまた違った味で、あの二つは給食の味だなとも思っています。

もう一つ保育園で覚えているのは、土曜日のおにぎりや、おやつのアイスです。コンビニのようなおにぎりを初めて食べたのが保育園でした。ビニールを外すのにとまどっていた私を先生が手伝ってくれたことを覚えています。アイスの時は、みんなが大盛り上がり。あんなふうに、みんなとワイワイとしながら食べる給食は成長と共に少なくなってきたので、なんだか寂しいなと思いました。そして、なによりも残念なことは、この二つが小学校の給食に出ないことです。これは、本当に寂しい。アイスなんて出たら、すごい大盛り上がりなのになと思います。

五年生で、放送委員をやりました。その時の教室から給食をお盆で運ぶ時間が好きでした。上手に運ぶ、こぼさないように運ぶことは誰かから下されたミッションのように思えたからです。そして、一番好きだった時間は放送をしながらチームの子と一緒に給食を食べる時間です。年齢の違う友達と喋り

ながら横に並んで食べたり、放送するときの緊張感をもって話している合間に急いで食べるのも好きでした。

放送の時にお盆を持って行くからおかわりはできないのは残念ですが、この時間を味わいたいという理由もあり、また放送委員になりたいです。

今、特に私が好きなメニューは、イカのレモン煮です。いつもイカのレモン煮の日は、前日からとても楽しみです。ごはんがすごく進みます。でも、人気が足りず、おかわりはいつもジャンケン争奪戦です。この当たり前な時間を送れているのも、給食を考えてくれている人や食材などを運んでくれる人、そして作ってくれている給食センターの人、学校で準備をしてくれる人などがたくさんいるからです。感謝して食べないといけないなと改めて考えることが出来ました。

そして、食べ物に困っている国があると聞いたことがあります。そういう国から見たら、この給食はうらやましいのかもしれない。食べられること、毎日あるということ、給食に関する全ての人に感謝しながら、「いただきます」と「ごちそうさま」をこれからもしていきたいです。